

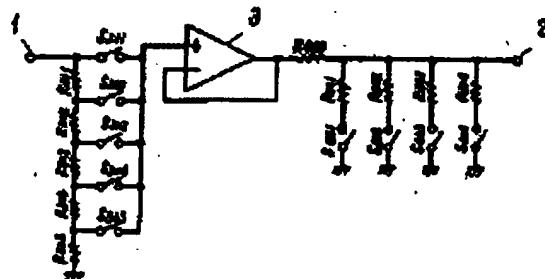
VARIABLE ATTENUATOR CIRCUIT

Patent number: JP58200623
Publication date: 1983-11-22
Inventor: SANO SHINYA; others: 01
Applicant: MATSUSHITA DENKI SANGYO KK
Classification:
- **International:** H03H11/24
- **European:**
Application number: JP19820083438 19820517
Priority number(s):

Abstract of JP58200623

PURPOSE: To form a variable attenuator circuit with the less number of switches by combining variable attenuating blocks comprising resistors and switches respectively.

CONSTITUTION: One variable attenuating block consists of resistors R301- R305 connected in series between an input terminal 1 and the ground, and of S301-S305 each one end of which is connected to each connecting point of the resistors, and the other ends of which are connected in common. The other variable attenuating block consists of a resistor R400 connected to an output terminal 2 and of a series circuit comprising resistors connected in parallel between the output terminal 2 and the ground, and switches, R401-R404, S401-S404. These two variable attenuating blocks are connected via a buffer amplifier 3 and each switch is closed in combination, allowing to obtain a required attenuation. Or, each variable block is connected directly with each other, and the amplifier is provided at the input side. Thus, the variable attenuating circuit with the less number of switches is formed.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭58-200623

⑬ Int. Cl.
H 03 H 11/24

識別記号 廣内整理番号
7439-5 J

⑭ 公開 昭和58年(1983)11月22日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑮ 可変減衰回路

⑯ 特 願 昭57-83438
⑰ 出 願 昭57(1982)5月17日
⑱ 発明者 佐野信哉
門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内

⑲ 発明者 堀文夫
門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内
⑳ 出願人 松下電器産業株式会社
門真市大字門真1006番地
㉑ 代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

明細書

1、発明の名称

可変減衰回路

2、特許請求の範囲

(1) 信号経路に直列に接続された第1の抵抗および第1の抵抗の出力側とグランド間に並列に接続された複数個の抵抗とスイッチの直列接続回路とで構成された第1の可変減衰ブロックと、信号経路とグランド間に直列に接続された複数個の抵抗およびその各接点に一端が接続され、他端が共通に接続された複数個のスイッチとで構成された第2の可変減衰ブロックとが、直接または、バッファ増幅器を介して絶縁接続されて成る可変減衰回路。

(2) 特許請求の範囲第1項において、第1の可変減衰ブロックが、4個の抵抗と第1～第4の4個のスイッチの直列接続回路で構成され、上記第1～第4のスイッチが、8ステップ周期で、下記のパターンに従って動作するようにしたことを特徴とする可変減衰回路。

ステップ0……すべて開く。
ステップ1……第1のスイッチのみ閉じる。
ステップ2……第2のスイッチのみ閉じる。
ステップ3……第1, 第2のスイッチのみ閉じる。
ステップ4……第3のスイッチのみ閉じる。
ステップ5……第2, 第3のスイッチのみ閉じる。
ステップ6……第4のスイッチのみ閉じる。
ステップ7……第1, 第2, 第4のスイッチのみ閉じる。

3、発明の詳細を説明

本発明は、オーディオアンプ等に用いられる、電子制御化された可変減衰器に関するものである。従来のオーディオアンプ等の可変減衰器としては、主として可変抵抗器が用いられて来たが、最近は、リモートコントロールの必要性や、マイコンを用いたディジタル制御の必要性から、可変減衰器も電子制御のできるものが求められてきた。電子制御化された可変減衰器の構成としては、

従来より、第1図および第2図に示すものがすでに提案されている。

第1図の従来例は、入力端1とグランド間に抵抗R1～R40の直列接続回路を接続し、各抵抗の接続点と出力端2との間に、スイッチS1～S40を接続し、スイッチS1～S40のうちの1個を閉じることで、必要な減衰量を得るようしたものです、基本的には、従来の可変抵抗器と同様の構成である。

ここで、例えば、減衰量の可変範囲を0dB～-78dB、1ステップ当たりの可変量を2dB（したがって必要ステップ数40）の可変減衰器が必要であるとする（これは、オーディオアンプで通常要求される仕様に近い）、第1図の構成では、第1図に示すように、スイッチが40個も必要となり、非常にコスト高になってしまいます。

そこで、より少いスイッチ数で、同様の可変特性を実現した他の従来例を第2図に示す。

第2図の従来例は、10dBステップで変化する可変減衰器ブロックR101～R108、S101～

R108と、2dBステップで変化する可変減衰ブロックR201～R208、S201～S208とを、パッファ増幅器3を介して継続接続して構成し、スイッチS101～S108のうちの1個と、スイッチS201～S208のうちの1個とを組合させて閉じることにより必要な減衰量を得るようしたものです。

第2図の従来例では、必要なスイッチ数は、第1図の従来例よりも大幅に少くなっているが、まだ、13個のスイッチが必要である。

本発明は、第2図の従来例よりも、さらにスイッチの個数を減少させた可変減衰器を提供するものである。

すなわち本発明は、第2図に示す従来例の2dBステップで変化する可変減衰ブロックを、信号系に直列に接続された抵抗と、その抵抗の出力側とグランド間に接続された複数個の抵抗とスイッチの直列接続回路とで構成したものに置換え、上記複数個のスイッチを種々の組合せて閉じることにより、第2図の場合よりも少い個数のスイッチで、

より広い可変範囲を実現し、さらに、2dBステップで変化する可変減衰ブロックの可変範囲が広がった分だけ、もう一方の可変減衰ブロックの1ステップ当たりの減衰量を増加させ、そのスイッチ数も減少させることができるようにしたものである。

第3図に本発明の一実施例を示す。なお、この実施例も、従来例と同様に、可変範囲0dB～-78dB、1ステップ当たりの可変量2dBとして説明する。

第3図において、抵抗R301～R306、およびスイッチS301～S306は、16dB/ステップの可変減衰ブロック、抵抗R400～R404および第1～第4のスイッチS401～S404は、2dB/ステップの可変減衰ブロックであり、スイッチS301～S306、S401～S404は各ステップに対し、第1表に示すような動作を行うように制御される。ここで、第1表の○印は、スイッチが閉じていることを表わしている。

ステップ No	減衰量 (dB)	S301～S305				S401～S404			
		501	502	503	504	505	401	402	403
0	0	○							
1	-2		○						
2	-4	○						○	
3	-6		○					○	
4	-8	○						○	
5	-10		○					○	○
6	-12	○							○
7	-14		○					○	○
8	-16			○					○
9	-18			○				○	
10	-20				○			○	
11	-22				○		○	○	
12	-24					○			○
13	-26						○	○	
14	-28							○	○
15	-30								○
16	-32				○			○	○
17	-34					○			○
18	-36						○		○
19	-38							○	○
20	-40								○
21	-42								○
22	-44								○
23	-46								○
24	-48					○			
25	-50						○		
26	-52							○	
27	-54								○
28	-56								○
29	-58								○
30	-60								○
31	-62					○		○	○
32	-64						○		
33	-66							○	○
34	-68							○	○
35	-70								○
36	-72								○
37	-74								○
38	-76							○	○
39	-78							○	○

可変減衰量等の用途に対しては、普通は許容範囲内である。

この実施例は、第3図からわかるように、第2図と同様の仕様を得るための必要スイッチ数が9個で済み、第2図と比べて、かなりスイッチの数が節約できるという効果がある。

なお、本発明は、第2図に示す各可変減衰ブロックの接続順序を逆にしたものについても有効である。その実施例を第4図に示す。

第4図の実施例は、各可変減衰ブロックを、パッファ増幅器を介さずに直接継続接続し、入力側にパッファ増幅器3を設けたものであるが、入力インピーダンスが十分低い場合は、パッファ増幅器3を省略してもかまわない。

以上のように、本発明によれば、非常に少いスイッチ数で多ステップの電子制御化された可変減衰回路を実現できるといふすぐれた効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図は従来の可変減衰回路の回

第1表に示すように、第1～第4のスイッチS401～S404は、8ステップごとに同じパターンをくり返している。そこで、例えば、抵抗R400～R404の値をそれぞれ、10KΩ, 3.9KΩ, 1.8KΩ, 0.8KΩ, 0.3KΩに設定すれば、ステップ0～7における減衰量および誤差は第2表に示すようになる。なお、この誤差のパターンは、ステップ8以降も同様にくり返される。

第2表

ステップ No.	理想減衰量 dB	減衰量 dB	誤差 dB
0	0.00	0.00	0.00
1	-2.00	-1.98	+0.02
2	-4.00	-4.42	-0.42
3	-6.00	-5.67	+0.33
4	-8.00	-7.81	+0.19
5	-10.00	-9.89	+0.11
6	-12.00	-12.01	-0.01
7	-14.00	-13.80	+0.20

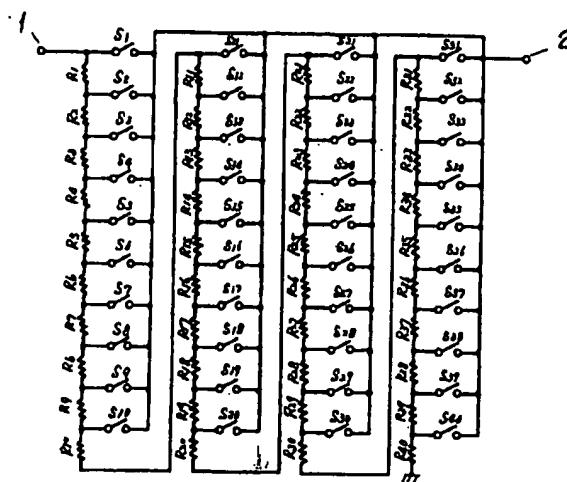
第2表に示す誤差の量については、一応士ガスステップ以内に納まっており、オーディオアンプの

路図、第3図および第4図は本発明の第1および第2の実施例の回路図である。

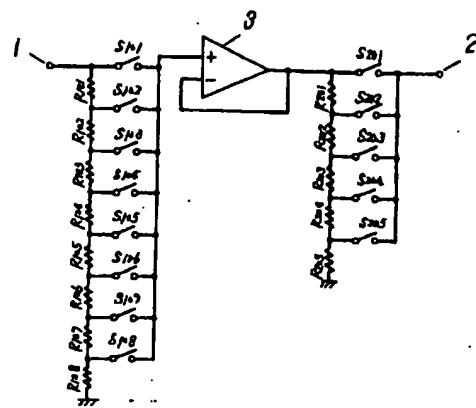
1……入力端、2……出力端、3……パッファ
増幅器、R301～R305, S301～S305 ...
… 第2の可変減衰ブロック、R410～R404,
S401～S404 ……第1の可変減衰ブロック。

代理人の氏名 井理士 中 尾 敏 男 ほか1名

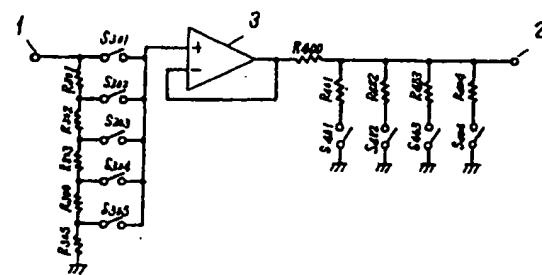
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

